

デジタル・ミキサー

Ui24R

追加機能説明書

お買い上げいただき、誠にありがとうございます。

安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの追加機能説明書を必ずお読みください。

この追加機能説明書は、お読みになった後も、いつでも見られるところに保管してください。

安全上のご注意

追加機能説明書には、お使いになる方や他の方への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。以下の注意事項をよくお読みの上、正しくお使いください。

注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

警告

- 必ずAC100V(50/60Hz)の電源で使用してください。異なる電源で使用すると火災や感電の原因となります。
- 必ず専用の電源コードを使用してください。これ以外の物を使用すると火災の原因となります。また、電源コードは他の機器には使用しないでください。
- 電源コードの上に重い物を乗せたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったりしないでください。コードが破損して火災や感電の原因となります。電源コードが傷んだら、ただちに使用を中止して販売店に交換をご依頼ください。
- 水に入れたり、濡らさないでください。また、水が入った容器や金属片などを、機器の上に置かないでください。火災や感電の原因となります。
- 煙が出る、異臭がする、水や異物が入った、破損した等の異常がある時は、ただちに電源コードをコンセントから抜き、修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。
- 分解や改造は行わないでください。お客様が保守できる部品は内部にはありません。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となります。
- 長時間使用しない時や落雷の恐れがある時は、電源コードをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因となります。また、雷が鳴り出したら金属部分や電源コードには触れないでください。

注意

- 斜面や不安定な場所に設置しないでください。落下すると、けがや器物破損の原因となります。
- ラックに設置する際は、全てのねじをしっかりと固定してください。落下によるけがや故障の原因となります。
- 以下のような場所に設置しないでください。火災や故障の原因となります。
 - ・ 直射日光の当たる場所
 - ・ 温度の特に高い場所、または低い場所
 - ・ 湿気の多い場所
 - ・ ほこりの多い場所
 - ・ 振動の多い場所
 - ・ 塩害や腐食性ガスが発生する場所
- 機器の移動は、電源コードや他の機器との接続ケーブルを全て外した上で行ってください。けがや故障、ケーブル破損の原因となります。
- 配線は、全ての機器をコンセントから抜き、正しく行ってください。コンセントに差し込んだまま配線すると、感電する恐れがあります。また、誤配線によるショート等は火災の原因となります。
- 濡れた手で、電源コードや他の機器との接続ケーブルの抜き差しをしないでください。感電の原因となります。
- 電源を入れたり切ったりする前に、各機器の音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害や機器の破損の原因となります。
- 大きな音量に連続してさらされると、聴覚障害の原因となります。音量の設定は慎重に行ってください。

電波に関するご注意

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。ただし、以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。

- ・本機を分解/改造すること。
- ・本機に貼ってある証明番号が印刷されたラベルをはがすこと。

2.4GHz帯使用時のご注意

- ・チャンネルを1～13に設定した場合は2.4GHz帯の周波数を使用しています。2.4GHz帯使用時、本機と端末が通信可能な距離は約40mです。「本機と端末の間に障害物がある場合」「本機や端末を直接地面や床に置いた場合」「雨天時の屋外で使用した場合」「電波を発信する機器が使用されている場所で使用した場合」では、通信距離が短くなったり操作ができなくなる可能性があります。上手く動作しない場合は、障害物を取り除くか、使用場所を変更してください。
- ・本機が使用している2.4GHz帯は他の無線機器でも使用している場合があります。他の無線機器との電波干渉を防止するために、以下の事項に注意してご使用ください。

本機の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局(以下「他の無線局」)が運用されています。

- 1.本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
- 2.万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合は、速やかに本機の使用場所を変えるか、運用を停止してください。
- 3.不明な点、その他お困りのことが起きたときは、以下の連絡先へお問い合わせください。

ヒビノ株式会社 ヒビノプロオーディオセールス Div.
カスタマーサポート
TEL:03-5783-3110

【現品表示】



現品表示は以下のことを表しています。

この無線機器の使用周波数は2.4GHz帯で、変調方式はDS-SS、与干渉距離は40mです。また、2.412MHz ~2.472MHzを使用し、移動体識別装置の帯域内での周波数の変更が可能です。

※本機には現品表示が印刷されたシールが同梱されています。現品表示のシールは本機の目立つところに貼ってください。

5.2GHz帯使用時のご注意

- ・チャンネルを36～48に設定した場合は5.2GHz帯の周波数を使用しています。5.2GHz帯使用時、本機と端末が通信可能な距離は約40mです。「本機と端末の間に障害物がある場合」「本機や端末を直接地面や床に置いた場合」「電波を発信する機器が使用されている場合で使用した場合」では、通信距離が短くなったり操作ができなくなる可能性があります。上手く動作しない場合は、障害物を取り除くか、使用場所を変更してください。
- ・5.2GHz帯の屋外での使用は法律により禁じられています。屋外で使用する場合は2.4GHz帯をご使用ください。

目次

安全上のご注意	P.2
電波に関するご注意	P.3
目次	P.4
梱包内容の確認	P.4
電源の ON/OFF	P.4
主な追加機能	P.5
AUX バスとマトリクスバスの切り替え	P.6
パッチ機能	P.7
PC を使用したマルチトラックの録音 / 再生	P.10
USB メモリーを使用したマルチトラックの録音 / 再生	P.11
アクセス制限機能のパスワードのリセット	P.15
アンテナの向き	P.15

梱包内容の確認

パッケージに次の物が入っていることを確認してください。

- 本体
- 電源コード
- Ui24R追加機能説明書
- Ui Series取扱説明書
- 保証書

電源の ON/OFF

本機の電源をONまたはOFFにするには、左側面の電源スイッチを使用します。付属の電源ケーブルで本機とコンセントを接続し、電源スイッチを「ON」の方向に傾けると電源がONになります。電源をOFFにする場合には反対の方向に傾けてください。

主な追加機能

本機はUi seriesの上位モデルですが、基本的な操作方法は既に発売を開始しているUi12、Ui16と同じです。基本的な操作方法については別冊の「Ui Series取扱説明書」をご覧ください。ここでは本機に新たに追加された機能について記載します。

- ・AUXバスをマトリクスバスに切り替えられるようになりました。
詳細はP.6の「AUXバスとマトリクスバスの切り替え」をご覧ください。
- ・パッチ機能が追加され、入力信号を任意のチャンネルに割り当てることができるようになりました。
詳細はP.7の「パッチ機能」をご覧ください。
- ・PCを使用してマルチトラックの再生/録音ができるようになりました。
詳細はP.10の「PCを使用したマルチトラックの録音/再生」をご覧ください。
- ・USBメモリーを使用してマルチトラックの再生/録音ができるようになりました。
詳細はP.11の「USBメモリーを使用したマルチトラックの録音/再生」をご覧ください。
- ・使用者がアクセスできる項目に制限を掛けるアクセス制限機能のパスワードがリセットできるようになりました。
詳細はP.15の「アクセス制限機能のパスワードのリセット」をご覧ください。
- ・前面のアンテナに加えて、右側面にもアンテナを装備しました。電波状況の良いアンテナで端末とデータの送受信を行います。
送受信性能を高めるためには、アンテナを正しい方向に向ける必要があります。詳細はP.15の「アンテナの向き」をご覧ください。
- ・マイク/ライン入力が20系統に、AUX出力が8系統に増えました。
- ・内蔵のWi-Fiアクセスポイント機能で、2.4GHz帯に加えて混雑の少ない5.2GHz帯も選択できるようになりました。
- ・放送局用の高品位ミキサーで定評のあるSTUDERが開発したマイクプリアンプを搭載し、音質が向上しました。
- ・任意のフェーダーをまとめて操作できるVCAフェーダーが使用できるようになりました。
- ・フットスイッチで操作できる項目に以下が追加されました。
TAP TEMPO：曲に合わせて押すことでテンポ(BPM)を変更。
MTK PLAY：USBメモリーを使用したマルチトラック音源の再生。
MTK RECORD：USBメモリーを使用したマルチトラック音源の録音。
- ・ショートカットボタンで操作できる項目に以下が追加されました。
MTK PLAY：USBメモリーを使用したマルチトラック音源の再生。
MTK RECORD：USBメモリーを使用したマルチトラック音源の録音。
MUTE ALL：全てのミュートの一括ON/OFF。
DIM：出力信号の20dB減衰のON/OFF。
- ・入力からAUXバスへの出力をプリフェーダーにしたときに、プロセッシング通過前の信号(PRE PROC)を出力するか、プロセッシング通過後の信号(POST PROC)を出力するかを個別に設定できるようになりました。
- ・DNYタブがGATEタブとCOMPタブに分かれました。GATEタブではゲートの設定を行い、COMPタブではコンプレッサーの設定を行います。
- ・マイク/ライン入りにLPフィルターが追加されました。
- ・AUX出力、MIX L/R出力にHP/LPフィルターが追加されました。
- ・マイク/ライン入力、AUX出力、MIX L/R出力にそれぞれ個別にディレイがかけられるようになりました。
- ・HDMI端子につないだディスプレイに操作画面が表示できるようになりました。また、ディスプレイを見ながら、USB端子につないだマウスやキーボードが操作できるようになりました。

AUXバスとマトリクスバスの切り替え

AUXバスをマトリクスバスに切り替えられるようになりました。切り替え方法は以下の通りです。

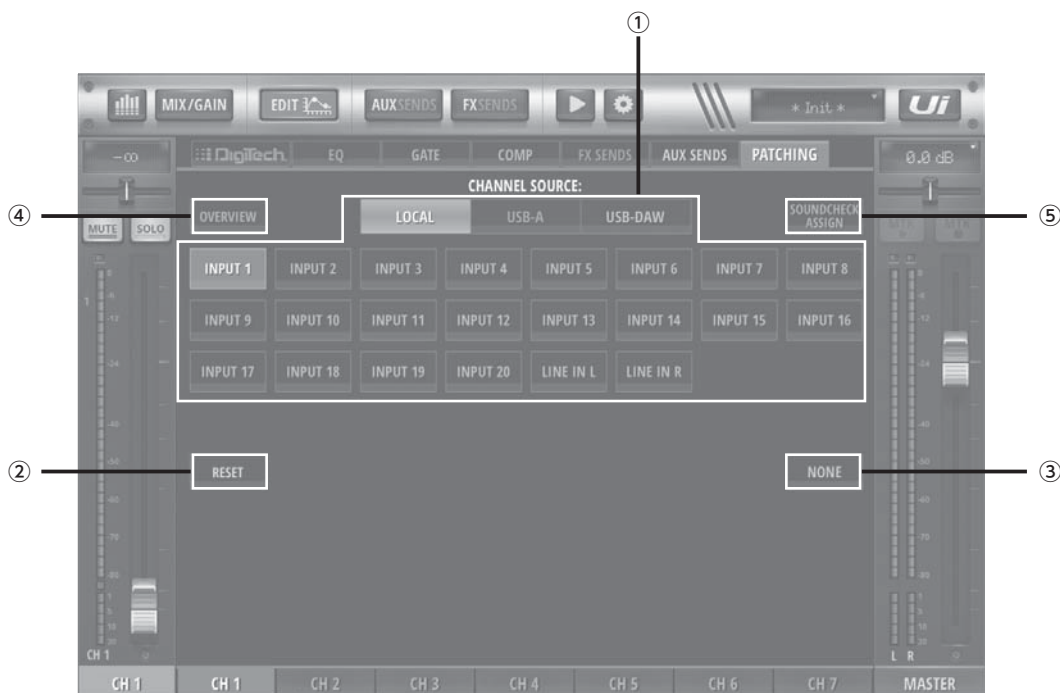
1. MIXページを開き、右にスライドさせてAUX MASTERフェーダーを表示させます。
2. 画面下にあるAUXボタンを長押しして、サブメニューを表示させます。
3. サブメニュー内にある「SWITCH TO MATRIX」を押すと、AUXバスがマトリクスバスに切り替わります。AUXバスに戻す場合は、画面下にあるMTXボタンを長押ししてサブメニューを開き、「SWITCH TO AUX」を押してください。



パッチ機能

パッチ機能が追加され、入力信号を任意のチャンネルに割り当てることができるようになりました。パッチの設定はEDITページまたは設定ページのPATCHINGタブで行います。EDITページのPATCHINGタブの各部の名称と機能は以下の通りです。設定ページのPATCHINGタブの各部の名称と機能はP.8をご覧ください。

EDITページのPATCHINGタブの各部の名称と機能



① CHANNEL SOURCE

選択されているチャンネルにパッチする入力信号を選択します。上部の「LOCAL」、「USB-A」、「USB-DAW」のボタンで信号の種類を選択してから、その下のボタンでパッチする信号を選んでください。選択可能な信号の種類は以下の通りです。

LOCAL …………… マイク/ライン入力端子やLINE IN入力端子に接続された機器からの入力信号

USB-A …………… USB REC端子に挿入されたUSBメモリーからの入力信号

USB-DAW …… USB I/F端子に接続されたPCからの入力信号

② RESETボタン

選択されているチャンネルのパッチを初期設定に戻します。

③ NONEボタン

選択されているチャンネルのパッチを解除します。

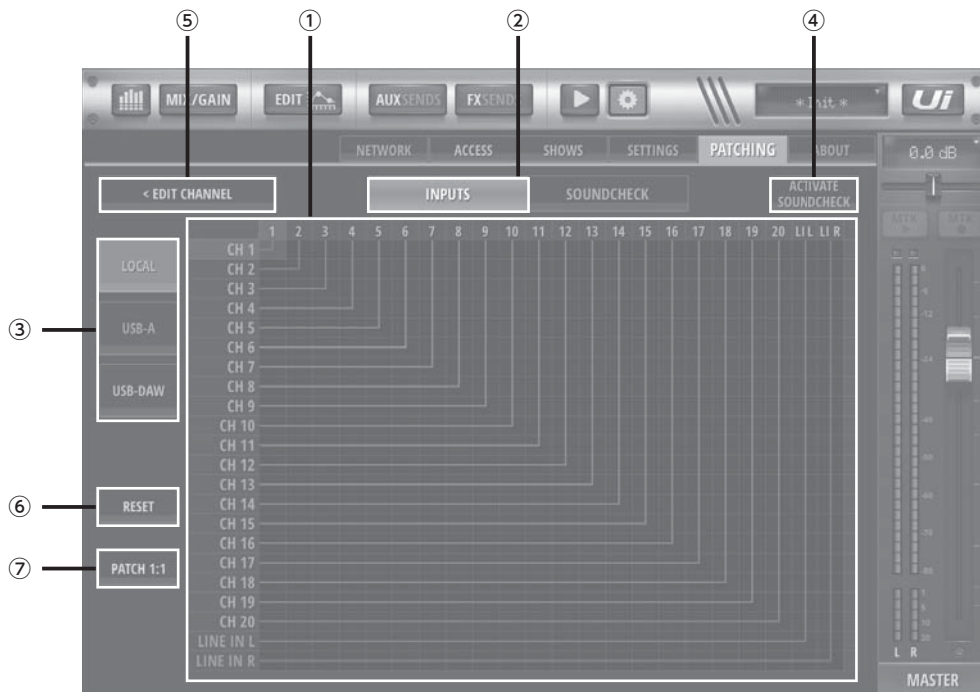
④ OVERVIEWボタン

設定ページのPATCHINGタブに移動します。

⑤ SOUNDCHECK ASSIGNボタン

サウンドチェック用のパッチを設定します。本機は通常のパッチ設定とは別に、サウンドチェック用のパッチを設定できます。PCやUSBメモリーに保存されているマルチトラックデータを利用してサウンドチェックを行う際に便利です。SOUNDCHECK ASSIGNボタンを押すと、タブの背面が緑色になり、サウンドチェック用のパッチ設定画面になります。通常のパッチと同じように設定してください。

設定ページのPATCHINGタブの各部の名称と機能



① パッチ・マトリクス図

パッチの設定状態をマトリクス図で表示します。縦軸はチャンネル、横軸は入力信号です。

② INPUTS/SOUNDCHECKボタン

パッチ・マトリクス図に表示するパッチの種類を切り替えます。INPUTSボタンを押すと通常のパッチ設定が表示され、SOUNDCHECKボタンを押すとサウンドチェック用のパッチ設定が表示されます。

③ CHANNEL SOURCEボタン

パッチ・マトリクス図に表示する入力信号の種類を選択します。選択可能な信号の種類は以下の通りです。

LOCAL …………… マイク/ライン入力端子やLINE IN入力端子に接続された機器からの入力信号

USB-A …………… USB REC端子に挿入されたUSBメモリーからの入力信号

USB-DAW ……… USB I/F端子に挿入されたPCからの入力信号

④ ACTIVE SOUNDCHECKボタン

あらかじめ設定したサウンドチェック用のパッチを有効にします。本機は通常のパッチ設定とは別に、サウンドチェック用のパッチを設定できます。PCやUSBメモリーに保存されているマルチトラック・データを利用してサウンドチェックを行う際に便利です。サウンドチェック用のパッチの設定はEDITページのPATCHINGタブで行います。

⑤ EDIT CHANNELボタン

パッチ・マトリクス図で選択されているチャンネルのEDITページのPATCHINGタブに移動します。

⑥ RESETボタン

選択されているパッチを全て初期設定に戻します。INPUTS/SOUNDCHECKボタンを押してパッチの種類を切り替えてからこのボタンを押してください。

⑦ PATCH 1:1ボタン

選択した入力信号を1から順番にチャンネルにパッチします。INPUTS/SOUNDCHECKボタンを押してパッチの種類を切り替え、CHANNEL SOURCEボタンを押して入力信号の種類を選択してからこのボタンを押してください。

備考

- ・ USBメモリーもしくはPCからの入力信号がチャンネルにパッチされている場合、GAINページの通常の入力ゲイン・フェーダーは非表示になります。非表示になっているときにマイク/ライン入力端子のゲインを操作・確認したい場合は、GAINページを右にスライドさせてマイク/ライン入力端子専用の入力ゲイン・フェーダー([in 1]~[in 20])を表示させてください。このフェーダーは本機前面のマイク/ライン入力端子と同じ順番で固定されています。
- ・ マイク/ライン入力端子からの入力信号がチャンネルにパッチされている場合、GAINページの通常の入力ゲイン・フェーダーとマイク/ライン入力端子専用の入力ゲイン・フェーダーは連動して動きます。



PC を使用したマルチトラックの録音 / 再生

PCを使用してマルチトラックの録音/再生ができるようになりました。最大32系統の信号が入出力できます。PCの接続手順は以下の通りです。

注意 ・ PCを使用してマルチトラックの録音/再生を行うためには、PCにサードパーティーのオーディオドライバーの使用を可能にするDAW(デジタル・オーディオ・ワークステーション)をインストールする必要があります。

備考 ・ PCへ信号を入出力するポイントはプロセッシング通過前です。

オーディオ・ドライバーのインストール手順

Windows PCを接続する場合は、PCに専用のオーディオ・ドライバーをインストールする必要があります。Mac PCはドライバーをインストールする必要はありません。ドライバーのインストール手順は以下の通りです。

1. Soundcraft webサイト(<http://www.soundcraft.com/en-US>)のUi24Rページ内にあるオーディオ・ドライバー「Multi-Channel USB Audio Driver Setup V.●●(Windows)」をダウンロードします。
2. ダウンロードしたファイルをダブルクリックするとインストールが開始されます。表示に従ってインストールを進めてください。
3. 最後にPCを再起動すればインストール完了です。正常にインストールが完了すると、プログラム内の「Harman Pro」フォルダー内に「Soundcraft USB Audio Control Panel」が追加されます。「Soundcraft USB Audio Control Panel」では、接続されているミキサーの確認、ストリーミングモードやバッファサイズの設定が行えます。確認や設定を行いたい場合は「Soundcraft USB Audio Control Panel」をクリックして、コントロールパネルを表示させてください。「Soundcraft USB Audio Control Panel」にはタスクバーからもアクセスできます。

PCの接続手順

1. 本機を端末からコントロールできる状態にします。
2. 本機のUSB I/F端子とPCのUSB端子をUSBケーブルで接続します。
3. PCの「Soundcraft USB Audio Control Panel」をクリックし、本機が認識されていることを確認します。
4. PCのDAWを起動して各種設定を行ってください。

備考 ・ PCを使用してマルチトラックの録音をする場合、本機からの出力信号とPCの入力チャンネルは以下の通りです。

本機からの出力信号	PC の入力チャンネル
MASTER L/R	チャンネル 1
MASTER L/R	チャンネル 2
AUX 1	チャンネル 3
AUX 2	チャンネル 4
AUX 3	チャンネル 5
AUX 4	チャンネル 6
AUX 5	チャンネル 7
AUX 6	チャンネル 8
AUX 7	チャンネル 9
AUX 8	チャンネル 10
CH 1	チャンネル 11
CH 2	チャンネル 12
CH 3	チャンネル 13
CH 4	チャンネル 14
CH 5	チャンネル 15
CH 6	チャンネル 16

本機からの出力信号	PC の入力チャンネル
CH 7	チャンネル 17
CH 8	チャンネル 18
CH 9	チャンネル 19
CH 10	チャンネル 20
CH 11	チャンネル 21
CH 12	チャンネル 22
CH 13	チャンネル 23
CH 14	チャンネル 24
CH 15	チャンネル 25
CH 16	チャンネル 26
CH 17	チャンネル 27
CH 18	チャンネル 28
CH 19	チャンネル 29
CH 20	チャンネル 30
LINE IN L	チャンネル 31
LINE IN R	チャンネル 32

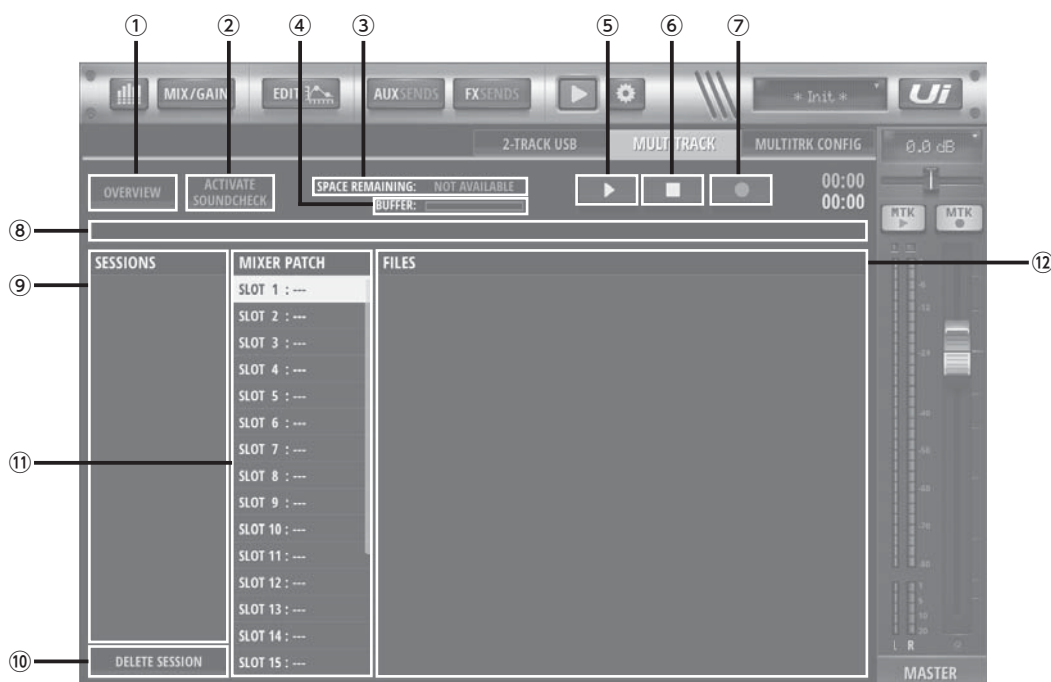
USB メモリーを使用したマルチトラックの録音 / 再生

USBメモリーを使用してマルチトラックの録音/再生ができるようになりました。最大22系統の信号が入出力できます。マルチトラックの録音/再生はメディアページのMULTITRACKタブで、録音するチャンネルの設定はメディアページのMULTITRACK CONFIGタブで行います。MULTITRACKタブの各部の名称と機能は以下の通りです。MULTITRACK CONFIGタブの各部の名称と機能はP.13を、USBメモリーを使用した録音/再生の手順はP.14をご覧ください。

- 注意**
- ・ USBメモリーでのマルチトラックの再生は、本機で録音されたマルチトラックデータのみ可能です。
 - ・ USBメモリーのスペックはUSB3.0、データ転送速度25MB/s以上を推奨します。これ以下のスペックのものを使用すると、録音/再生が安定して行えない可能性があります。
 - ・ USBメモリーは「FAT32」でフォーマットしたものをご使用ください。他の形式でフォーマットしたものは正しく認識されない可能性があります。
 - ・ USBメモリーは空き容量が十分にあるものをご使用ください。空き容量が少なくなると、録音が止まってしまう可能性があります。

備考 ・ USBメモリーへ信号を入出力するポイントはプロセッシング通過前です。

MULTITRACKタブの各部の名称と機能



① OVERVIEWボタン

設定ページのPATCHINGタブに移動します。

② ACTIVATE SOUNDCHECKボタン

あらかじめ設定したサウンドチェック用のパッチを有効にします。本機は通常のパッチ設定とは別に、サウンドチェック用のパッチを設定できます。PCやUSBメモリーに保存されているマルチトラックの音声を利用してサウンドチェックを行う際に便利です。サウンドチェック用のパッチの設定はEDITページのPATCHINGタブで行います。

③ SPACE REMAINING

挿入されているUSBメモリーの空き容量を表示します。USBメモリーが挿入されていない時はNOT AVAILABLEと表示されます。

④ BUFFERインジケータ

USBメモリーへの録音時に、データ転送速度を緑、黄、オレンジ、赤の4色で表示します。安定した録音を確立するためには緑色の状態でご使用ください。BUFFERインジケータを緑色で使用するためには、空き容量が十分にあり、推奨USBメモリー以上のスペックのものをご使用ください。

⑤ 再生/一時停止ボタン

SESSIONSリストで選択されているマルチトラックデータの再生や一時停止を行います。再生時は一時停止ボタンに、一時停止時は再生ボタンに変わります。

⑥ 停止ボタン

マルチトラックデータの再生を停止します。再生するデータを変更する場合は、このボタンを押してからSESSIONSリストで再生したいマルチトラックデータを選択してください。

⑦ 録音ボタン

MULTITRACK CONFIGタブで設定したチャンネルの信号を録音します。押すと録音が始まり、もう一度押すと停止します。録音されたマルチトラックデータは、SESSIONSリストに「0001」から順番に保存されていきます



・録音されたマルチトラックデータは、USBメモリーの「Multitrack」フォルダー内にあるSESSIONSリストと同名のフォルダーに保存されます。フォルダー名を変えることで、SESSIONSリストに表示される名前を変えることができます。



・SESSIONSリストと同名のフォルダーにある「.uirecsession」ファイルを削除すると、そのフォルダーは認識されなくなります。削除しないでください。

⑧ 再生状況表示バー

マルチトラックデータの再生状況を表示します。指やマウスで操作することで、再生場所を変更できます。

⑨ SESSIONSリスト

再生可能なマルチトラックデータを一覧で表示します。再生中のデータは緑字で表示されます。SESSIONSリストのマルチトラックデータを選択すると、そのデータに保存されている音声ファイルがトラック毎にFILESリストに表示されます。

⑩ DELETE SESSIONボタン

選択されているSESSIONSリストのマルチトラックデータを消去します。

⑪ MIXER PATCHリスト

USBメモリーからの入力信号をチャンネルに割り当てます。SLOTを素早く2回タッチするとチャンネルの一覧が表示されるので、割り当てたいチャンネルを選択してください。SLOTの番号はFILESリストの音声ファイル番号になっています。チャンネルへの割り当てはEDITページのPATCHINGタブでも行えます。

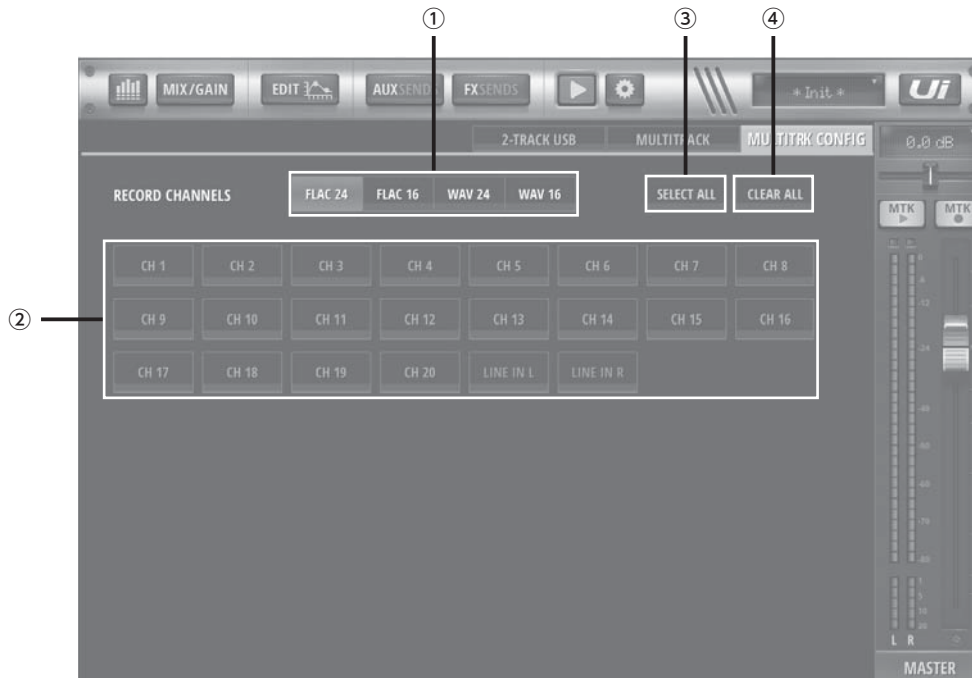


・MIXER PATCHリストで設定したパッチはSESSIONSリストのフォルダーを変更しても保持されます。

⑫ FILESリスト

現在選択されているSESSIONSリストのマルチトラックデータに保存されている音声ファイルがトラック毎に表示されます。

MULTITRK CONFIGタブの各部の名称と機能



① 録音形式選択ボタン

録音したいファイル形式とビット数を選択します。FLACを選択すればflacファイルで録音され、WAVを選択すればwavファイルで録音されます。ビット数は24ビットと16ビットから選択できます。

② チャンネルボタン

録音したいチャンネルを個別に選択します。選択されているチャンネルは黄色で表示されます。

③ SELECT ALLボタン

全てのチャンネルを選択します。

④ CLEAR ALLボタン

全てのチャンネルの選択を解除をします。

USBメモリーを使用した録音/再生の手順

USBメモリーを使用した録音/再生の手順は以下の通りです。以下の手順は本機を端末からコントロールできるようにしてから行ってください。



- ・ USBメモリーでのマルチトラックの再生は、本機で録音されたマルチトラック・データのみ可能です。
- ・ USBメモリーのスペックはUSB3.0、データ転送速度25MB/s以上を推奨します。これ以下のスペックのものを使用すると、録音/再生が安定して行えない可能性があります。
- ・ USBメモリーは「FAT32」でフォーマットしたものをご使用ください。他の形式でフォーマットしたものは正しく認識されない可能性があります。
- ・ USBメモリーは空き容量が十分にあるものをご使用ください。空き容量が少なくなると、録音が止まってしまう可能性があります。



- ・ USBメモリーへ信号を入出力するポイントはプロセッシング通過前です。

録音の手順

1. 本機前面のUSB REC端子にUSBメモリーを挿入します。
2. メディアボタンを押してMULTITRK CONFIGタブを表示し、録音形式選択ボタンで録音のファイル形式とビット数を、チャンネルボタンで録音したいチャンネルを選択します。
3. MULTITRACKタブを表示し、録音ボタンを押して録音を開始します。録音中はショー/スナップショットボタンの左上にMTRと表示されます。録音を止めたい時はもう一度録音ボタンを押してください。

再生の手順

1. 本機前面のUSB REC端子に本機で録音したマルチトラック・データが入っているUSBメモリーを挿入します。
2. EDITページのPATCHINGタブや、メディアページのMULTITRACKタブのMIXER PATCHリストでパッチの設定を行います。
3. メディアボタンを押してMULTITRACKタブを表示します。
4. 再生ボタンを押すとマルチトラック・データが再生されます。

アクセス制限機能のパスワードのリセット

使用者がアクセスできる項目に制限を掛けるアクセス制限機能のパスワードがリセットできるようになりました。アクセス制限機能の設定は設定ページのACCESSタブで行います。リセット方法は以下の通りです。

1. 「masterpass.txt」という名前のtxt形式のテキストファイル(内容は不要)を作成し、空のUSBメモリーにコピーします。
2. 本機の電源がOFFになっている状態で1のUSBメモリーを接続します。どのUSB端子に接続しても構いません。
3. RESETボタンを押しながら電源をONにして、RESETボタンをそのまま押し続けます。Wi-Fi LEDが点灯したら、RESETボタンを離しUSBメモリーを外して、電源をOFFにしてください。
4. 電源をOFFにして15秒以上経過した後に、再び電源をONにします。すぐにONにすると起動に失敗する可能性があります。Wi-Fi LEDが点灯したらパスワードのリセットは完了です。

アンテナの向き

本機は前面のアンテナに加えて、右側面にもアンテナを装備しています。電波状況の良いアンテナで端末とデータの送受信を行うため、設置方法や設置場所によらず、より安定したワイヤレス接続が可能です。送受信性能を高めるためには、以下のように設置方法に応じてアンテナを正しい方向に向ける必要があります。

前面パネルを横または上にして台に置いた場合

前面のアンテナ

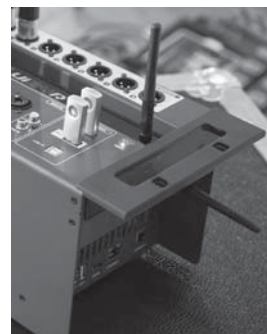
上方向に地面と垂直に立ててください。

右側面のアンテナ

右方向に地面と水平に立ててください。



前面パネルを横にして
台に置いた場合のアンテナの向き



前面パネルを上にして
台に置いた場合のアンテナの向き

ラックマウントした場合

前面のアンテナ

上方向に地面と垂直に立ててください。

右側面のアンテナ

下方向に地面と垂直に収納してください。

※ラックマウント時、右側面のアンテナではほぼ電波の送受信は行えません。



ラックマウントした場合のアンテナの向き

Soundcraft®

by HARMAN

●商品写真やイラストは、実際の商品と一部異なる場合があります。●掲載内容は発行時のもので、予告なく変更されることがあります。変更により発生したいかなる損害に対しても、弊社は責任を負いかねます。●記載されている商品名、会社名等は各社の登録商標、または商標です。

HIBINO

<http://www.hibino.co.jp/>
E-mail: proaudiosales@hibino.co.jp

ヒビノ株式会社 ヒビノプロオーディオセールス Div.

営業部

〒108-0075 東京都港区港南3-5-12
TEL: 03-5783-3110 FAX: 03-5783-3111

札幌オフィス

〒063-0813 北海道札幌市西区琴似三条1-1-20
TEL: 011-640-6770 FAX: 011-640-6776

大阪ブランチ

〒564-0051 大阪府吹田市豊津町18-8
TEL: 06-6339-3890 FAX: 06-6339-3891

名古屋オフィス

〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南3-4-26
TEL: 052-589-2712 FAX: 052-589-2719

福岡ブランチ

〒812-0041 福岡県福岡市博多区吉塚4-14-6
TEL: 092-611-5500 FAX: 092-611-5509